

拜復、玉章拜誦致しました。

仰せのとあり 前作よりはるかによくなつたを存じます
冒頭いきなり事件に入つて行ふこと、馬の遺恨
の件りをカットしたことを、全体に漢文調を和らげん

三と作と 大和文 い、結果いかにと
たよりす。

くに
 和として
 松島屋
 龍雪の
 件り
 つけは
 又
 同の

二つ並べて
みえり
はつかり
伊でずん
かん

枚數もうち、としては大分其厚目を越えてしまふ
たわけですか。とこ、いう、削るとうもろく、このやう
のりを通して揚載といふこと、ないでまゐるやうです。

右不取敢要同み
大いに助けてありませう
蘭池至繁此の生花
之身々物々

之早令
物者

17
2
12

かつかいひす

31
12
榎
一
木

王守仁

大目下

先日、御幸をまゐて干蛤をお送りしましたところ、先達を召しあがけて下さいましたとか、いつはつまらぬ物を送ってきたと却ってお叱りつけやしないかとヒヤヒヤしていたのです。御父さまのお手紙ではと安吐のトイキをつきまじ、そんなお手紙いたいます。夫直後ゆえ、ひとしあこの状態めにくいのぢやありませんか——。

同封しました手紙は「講談クラフ」の記者から昨日
まいったものですけれど、それにあうます如く、また一筆
(四十七枚) 綴つてくれるといふのです。講談社はこれまで
いつもひきつづいて金ををくっていたのですから、今回にかきり
とつて、ついでに暫く待つてくれるといふことで、私に大いに
アテがはかれましてしまいました。たゞ今月中には何とか
拂つて貰へると思ひますが、それまでの食糧糧料がどう
にもなりませぬ。

1
フミ、まゝ、この材料のはいりますまで、金一万四也

2 渡を思ふ大いと思ひあひて、あ日の演舞

も改題するつもりであります。

一九五三年十月三日

江口陳一

舟橋先生手文

千葉市小中台所公便六八号

7/2

江口美木一